

まえがき

ここに、「魔法の算数」の書を世に送り出すこととします。

小学校高学年の子どもたちが、学校で習う割合の学習をほとんど理解していないということを知ったのは、もうずいぶん昔のことになります。

わたしが東京の渋谷の片隅で竹の会という塾を始めたのが、昭和60年10月のことでした。以来、ことにつけまともに割合を理解しない、あるいは算数に苦しむ受験の子どもたちと出会ってきました。

竹の会は高校受験を専門とする塾でしたから、なかなかそうした子どもの対策に本格的に取り組むこともなくきましたが、平成17年あたりから竹の会にやってくる小学生のために、いろいろと算数指導の方法を工夫するようになりました。

平成18年には、公立中高一貫校が人気沸騰で、そういう中でわたしはひたすら算数、特に、割合指導法の研究と実践に没頭することとなったのです。

さまざまな指導の方法を試す日が続きました。苦しみながら何度も試行錯誤を重ねる中で、あるとき作った「マイクロクロ」思考という方法が、平成23年に指導した、算数の得意な2人の男の子をとらえました。「これで算数がわかった」というこの言葉が、わたしにひとつの閃きをもたらしたのです。

それからわたしは、これまでの割合の問題をこのマイクロクロ思考で指導することにこだわったのです。その効果はてきめんで、たちまち割合を理解し、中学受験の割合の問題をその方法で解いてしまう子たちが続出したのです。

平成24年には、さらにマイクロクロ思考は進化をとげ、算数習得のひとつの型として完成域へ達していったのです。

それからの3年、竹の会では入会してくる子どもたちはこのわたしの編み出したマイクロクロ法で面白いように算数を得意としていきました。竹の会には、こんなにすばらしい算数マスター法があるんだよ、とわたしは訴えたかった。

しかし、悲しいかな、竹の会のような小塾には、たとえそのような秘密の方法があったとしても、だれも知らないままに時間が過ぎていったのです。

竹の会の開発したマイクロクロ思考を、このまま竹の会の中だけに眠らせておくのはもったいない、いつしかわたしはそう思うようになりました。

小学校で割合を中途半端にしか理解できないままに中学へと進む、夥しい小学生のみなさんに竹の会は救いの手を差し伸べなければならない、そう思うようになりました。

竹の会で学んだ小学生が、「難しいと思っていた中学受験の算数の問題が簡単に解けるようになって笑っちゃった」という魔法の方法の公開です。

全国の小学生が、わたしのこの書を手にして、2、3カ月後には、算数に自信を持ち、目を輝かせていることでしょう。だって、竹の会の子たちはみんなそうでしたから。

本書は竹の会初の出版となります。わたしには本にしたい原稿がいくらでもありました。でも本を出すということはとても大変なことです。とにかくまずお金がかかります。だから長い間、わたしの原稿は世に出ることもなく眠ってきたのです。

時代が変わり、わたしのような者にもなんとか本を出せるようなシステムができてきました。アマゾンという巨大企業

が市井に沈むわたしのような者にも機会を与えてくれたのです。

この本が算数を苦手とする多くの小学生に、あるいはもともと算数が好きな子どもたちに大きな目を開くことは間違いないと思います。竹の会に子どもさんを通わせた、あるお母さんは、自らもわたしのマイクロマクロ思考を読まれて、「まさに目からウロコの方法だった」とそのときの感動を語られています。

小学校で「よくできる」をそろえた優等生でさえも割合を本当に理解はしていない、という事実を真摯にとらえて、ここにわたしの「魔法の算数」をお届けします。

全国の小学生のみなさんに竹の会からの、わたしからの奇跡のプレゼントです。

